

考える授業やるキット | 社会

# 継続活用で学び方を習得 「教えられる」から 「自ら考える」にステップアップ

仙台市教育委員会 指導主事 石井里枝

- ・「考える授業やるキット」活用初心者～中級者向けのヒント
- ・思考ツールで自ら考える力を育む3ステップ 一体験する・使って考える・自ら選ぶ
- ・情報整理のあとが肝心。議論を深め、自分の考えを導き出すための支援のポイント

NHK for Shcoolの番組からは、学習課題を解決するためのたくさんの情報を得ることができます。

その情報を整理する際、みなさんは、どのようにしますか？

おそらく、解決する課題に合わせて、情報を比較したり、事実と意見を分類したり、情報同士を関連付けたりしながら、解決の方法を考えて自分の意見を組み立てるはずですが。

「考える授業やるキット」には、そうした過程の「どのように考えるのか」の部分のお手伝いをしてくれる「思考ツール」が予めセットされています。

目指したいのは、「やるキット」を活用した授業を経験することで、子どもたちが学び方を身に付け、自由に情報を扱いながら、自分の考えを深めたり、再構築したりする姿です。

もしも、先生も子どもたちも「考える授業」に慣れていないところからのスタートだとしたら、ぜひ、以下のような活用のステップを踏んで取り組んでみてください。

先生が教える授業から、子どもたちが「自ら考える」授業へと変わっていくはずですが。

## ステップ1：「考える授業やるキット」を利用しながら、思考ツールを使った情報の整理・分析を体験する

まだ思考ツールの利用に慣れていない段階であれば、どのような思考ツールがあるのか、どのような思考を促したいときにそれを使うのかを、体験的に学ぶことを目標にはじめてみましょう。

「わたしたちの生活と政治」の単元では、7本の番組があり、6つの思考ツールの利用を体験できます。

はじめは、思考ツール上に、一部のカードを載せた状態で児童に配布するのも1つの方法です。

自分ではなかなか発想できない子ども、既に配置されているカードを参照しながら、残った部分にどんなカードを置けばよいかを考えやすくなります。

社会にドキリ『平和主義』を例にすると、ここでの学習課題は「平和主義と自分たちの暮らしとの関係を調べ、平和を守ることについて、自分の考えをまとめよう」と設定しています。

自分の考えをもつために、番組の視聴から「平和を維持するためにおこなってきたこと・おこなっていること」についてクラゲチャートを使って整理していきます。

クラゲチャートの頭を書くことは、「事実・主張・意見」で、その理由をクラゲの足に並べることで、平和主義と自分たちの暮らしとの関係のつながりを視覚的に捉えたり、複数の理由を明らかにしたりしていきます。

下図のように、一部だけ見本で載せておき、残りの部分を埋めるように声掛けすると、どのようなことを理由に置けばよいか、迷うことは少なくなります。

個でおこなう場合も、協働でおこなう場合も同様に、慣れるまでは考えるヒントとしてセットアップしてあげるとよいです。

番組の静止画も活用



空欄部分を自分で埋める

すべて埋めなくてもよい  
枠が足りなければ付け足す

考えるヒントのセットアップ例

思考ツールの図を完成させると見た目がよいので、とても学習した感じがするのですが、実はここからが学びを深める大切な場面です。この図を使って、何を考えるかが学習の山場になります。

今回のクラゲチャートであれば、頭の部分に書かれていることは共通なので、足に書いた複数の「理由」に着目し、個やグループ同士の相違点を見付けたり、同じ事柄でも、理由と事実をつないでいる具体を掘り下げたりしてみると、捉え方が違うこともあります。

そういったことが議論や考えを深めるポイントになることを、体験させていきましょう。

はじめは、先生が指摘していたことも、慣れてくると、次第に子どもたち自身で気になったことに注目できるようになります。

集めた情報をどのように見て、自分の考えをつくっていくのか、使った思考ツールによっても変わりますが、この体験の繰り返しがとても大切です。

ステップ1のゴールとして、子どもたちが思考ツールを使った情報の整理・分析の体験を通して、問題解決の手順に慣れ、思考の視覚化の効果を実感することを目指していきましょう。

## ステップ2：思考ツールには違いや使い方があることを理解して、自分の考えを導き出すために使う

一通り思考ツールを使った情報の整理・分析を体験しているのであれば、子どもたちは使っているツールによって、情報の整理の仕方や視覚化された情報の扱い方が違うことを、実感を伴って理解しているはずですが。

おそらく、先生がどの思考ツールを提示するかによって、子どもたち自身はそれに合わせた思考の構えができるようになります。

次の段階は、ツールを適切に使う（使って考える）ことができるようになることです。

例えば、社会にドキリ『三権の役割』では、裁判員制度にクローズアップして番組が構成されています。

学習課題は「裁判とわたしたちはどのように関わっていくのか、自分の考えをまとめよう」です。

子どもたちは、番組の視聴を通して裁判員制度の概要について学びます。

その上で、自分も裁判員になる可能性があることから、裁判とのかかわりを自分事として捉えることができるようになります。

そして、根拠や理由を明確にしながら、裁判とのかかわりについて自分なりの考えをもつことができるようにしていきます。

「やるキット」では、「PMIシート」を使って、まずは個人で情報を整理していくことを想定しています。

その後、グループで共有し、議論する際の素材としてPMIシートを生かしていきます。

PMIシートは「メリット（プラス面）」と「デメリット（マイナス面）」と「気になること（裁判員になったとしたら）」の3つの項目に分かれている表です。

このツールを見た時点で、子どもたちは、裁判員制度のメリット・デメリットを見付けながら番組を視聴したり、動画クリップや資料を読んだりすることができます。

この時点でもある程度、自分は裁判員制度に肯定的なのか否定的なのか、自分の意見をもつ上でもっと知りたいこと、わからないことは何かといった不足の情報などにも気付くことができます。

個人のPMIシートを作成した時点で、考えを書き留めておくことも大切です。  
後半のグループワークで、友達と議論したあとに、考えの変容にも気付くことができます。

ここで、議論のポイントですが、グループで議論をする際に、情報の確認に終始してしまう授業をよく見かけます。  
どんな情報が載っているかが、視覚的にわかるのが思考ツールの良い点です。  
なぜその情報をそこに載せたのか、といった背景を語り合うことができるような議論の展開の仕方を考えてみましょう。

今回であれば、裁判員制度について、明らかにメリット・デメリットと分けられることもあれば、人によって捉えが異なることもあります。  
そこで、同じキーワードでも、異なるところにカードが置かれているものを見付け、自分とはなぜ捉えが違うのかを聞いたり、同じキーワードでも、根拠としている情報・資料が異なる場合もあるので、どうしてその資料が根拠となるのかを聞いたりすることで、より深い議論に導くことができます。

また、自分自身の読み取りが浅く、間違えた情報の捉えがあったと気付くことがあるかもしれません。  
さらには、いったん整理した情報を、立場や視点（年齢・職業・家族構成など）を変えてみるとことで、カードの置き場所が変わることもあります。  
思考ツールを切り替えることで、見え方が変わってくることもあるかもしれません。

同じ事柄でも、メリット・デメリットに分かれている。なぜそう捉えたのか互いの考えを伝え合う。

捉え方が異なる。どの資料からそう考えたのか根拠や理由を伝え合う。

比較して議論のポイントを見付ける

先生は、多様な視点で物事を考えることができるように、子どもたちに新たな視点を投げかけたり、気付いていない相違点に気付かせたりする声掛けをしてみましょう。

見方が広がり、情報の関連付けによって見えてきたことをもとに、再度、自分はどうか考えるのかまとめさせることで、自分の考えの深まりや、考えの変容の理由に気付くことができ、考える質を向上させていくことができます。